熱帯びたパネルディ

た。第13回国際包装セミナ

料」6件、「輸送包装」10件の合計27件で、最新の成果に聴講者は熱

するポスター発表は「包装材料」9件、「輸送包装、他」10件の合

岐路に立つ中国製紙産業

中国製紙産業報告／日本製紙連合会

段ボール生産も2桁マイナス

中国造紙協会が発表した「中国製紙産業2018年度報告」（資料提供：日本製紙連合会）によると、中国の紙パルプ産業が大きな転換期にあることが改めて鮮明となった。

同協会の調査によると、中国国内の製紙企業数は約2700社。18年の紙・板紙生産量は前年比6・2%減の1億435万㌧だった。一方、紙・板紙消費量は4・2%減の1億439万㌧で、1人当たりの消費量は75㌔だった。

品種別の生産・消費をみると、衛生用紙は生産・消費とも増加した一方、新聞用紙が生産・消費ともに2桁のマイナス、段ボール原紙も生産量が10%減（4250万㌧）、消費量も7・1%減（4558万㌧）を記録するなど、主要品種のほとんどで生産・消費が減少した。

18年のパルプ生産量は前年比9・4%減の7201万㌧。内訳は木材パルプ1147万㌧（9・2%増）、古紙パルプ5444万㌧（13・6%減）、非木材パルプ610万㌧（2・2%増）。

パルプ消費は9387万㌧で、前年から6・6%減少した。内訳は、木材パルプ3303万㌧（4・8%増）、古紙パルプ5474万㌧（13・2%減）、非木材パルプ610万㌧（2・2%増）で、構成比はそれぞれ35・2%、58・3%、6・5%となった。木材パルプが増加した一方、古紙の輸入規制によって古紙パルプ消費が大幅に減少した。

古紙回収量は4964万㌧で、前年から6・1%減少した。古紙回収率は47・6%だった。

山本ビニター

事業育成・開発を支援

世界最高水準の溶着技術駆使し

山本ビニター（大阪市天王寺区、☎06・6771・0606）はこのほど、「高周波溶着」事業の一層拡大へ、相談、開発支援、加工ノウハウの提供、試作、量産をワンストップ対応する「コンサルティング・ラボ」を新設した。高周波ウェルダー全般に対応し取引先にソリューションを提供。差別化提案につなげていく考え。

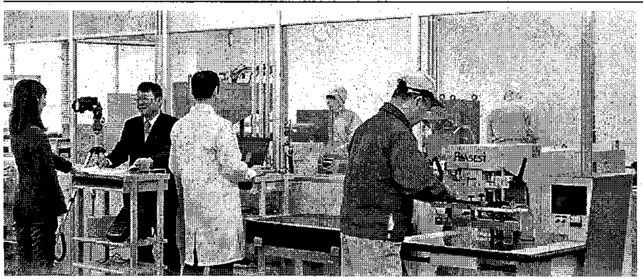
電波（高周波、マイクロ波）を使った誘電加熱装置のトップメーカーとして広く認知される同社。65年以上もの期間、高周波ウェルダーの製造販売を通じ獲得した世界最高水準の高周波溶着技術で幅広い業態に機器を提供し企業の信頼性を高めている。

今後さらに事業の拡大を図るため「コンサルティング・ラボ」を新たに設置し、ヒアリングから企画提案までの一連の業務をトータルでサポートする。

同ラボは高周波溶着に関するあらゆるユーザーの相談窓口として運用。専門技術者がユーザーからの要望、課題を分析検討し、無償で提案書もしくはサンプル作成を行う。

同社は八尾工場（大阪府八尾市）内の高周波溶着加工工場「ソリューション・ファクトリー」の人員と設備も合わせて拡充。高周波溶着製品に関する課題解決能力を高め、ユーザーの多様な要望に対応できる体制として整備。同ファクトリーではユーザーの高周波溶着製品開発の支援、溶着加工に関する加工ノウハウの提供だけでなく、高度な溶着技術と装置を用いての試作から、品質・コストを追求し量産までの事業育成にも対応する。

「高周波ウェルダーメーカーとして独自の視点からアプローチを行い、世界最高水準の高周波溶着技術を駆使しユーザーの思いをカタチにできるモノ造りを提供していきたい」と同社では意欲を示している。



新設した「コンサルティング・ラボ」

GS1

GS1コードの制度改定

デジタル・IT化を背景に

流通システム開発センター（＝GS1、林洋和会長）は2021年5月から、GS1事業者コードの登録更新制度を改定する。これは、近年急速に進展する社会のデジタル化、IT化の広がりを背景にした、各種GS1ルールの見直しに対応する取り組みで、1978年の同制度開始以来の全面的な改定となる。

改定事項は、GS1事業者コードの登録更新手続きサイクルの3年ごとから1年ごとへの変更、10桁のGS1事業者コードの新設、短縮タイプのバーコード（GTIN－8）を6桁のGS1事業者コードからGTIN－8ワンオフキー貸与への切り替え、GLNワンオフキー新設の4点だ。

サイクルの変更では、情報がよりタイムリーに更新されるようになる。これにより、GS1事業者コードなどの正確性や信頼性が高まり、GS1標準の変更にもスピーディーに対応可能になるなど、事業活動の円滑化が見込まれる。

各種コードの変更では、コード資源の有効活用や、国際ルールへの適用などが期待できる。

同件に関する情報は、今後順次、GS1のホームページ（https://www.dsri.jp）で公開していく。

フォーカス2019

タカラ

今月2展示会に出展

注目は偽造防止認証技術

タカラ（東京都世田谷区、☎03・3707・5122）はこの7月に、医薬・化粧品関連の展示会「第21回インターフェックスジャパン」と、食品工業界最大の総合トレードショー「FOOMA JAPAN2019」の二つの展示会に出展した。なかでも大きな関心を集めたのが、インターフェックスで展示した個別認証技術「SAMP（サンプ）」だ。

SAMPはバーコードやICタグを使わずに、ラベル印刷の微細な違いを利用する個別認証技術で、シヤチハタ（本社・名古屋市）が開発したもの。人間の目では判別不可能な印刷物の微小なバラつきを利用して、製品1個1個を識別する人工物メトリクスを応用したもの。

同一の印刷機やコピーで印刷されたものでも、色情報は微細に異なることに着目したのがSAMP。印刷時の微細なバラつきを唯一無二の個性として、それを個別認証登録し、出荷時、流通時、使用時に撮像検証を行うことで個包装単位でのトレーサビリティを行うことができるというソリューションだ。

実際にこれを活用して、医薬品の個別管理と院内流通の〝見える化〟の実証試験も、シヤチハタと金沢大学附属病院薬剤部とで実施し、トレーサビリティの確保を実現している。

ラベル印刷を手掛けるタカラでもSAMPを広く提案していく。

インターフェックスでの展示会風景

TOTO（北九州市小倉北区、☎093・951・2901）のウォシュレット用段ボール包装材「段ボールのバネ性を利用した〝潰れない〟緩衝仕切」が、日本包装技術協会（矢嶋進会長）主催の「第43回木下賞」において「包装技術賞」を受賞した。

同社は2000年から日本パッケージングコンテストを始めとする包装コンテスト分野で受賞しており、「木下賞」は第41回に続き二度目の受賞となる。

「段ボールのバネ性を利用した〝潰れない〟緩衝仕切」は、ウォシュレット製品と内外装兼用箱の間に配置する緩衝材。段ボールを折ることで実現する〝バネ〟のような反発（バネ性）で、さまざまな衝撃を緩衝する。段ボール緩衝材の最大の弱点である「一度緩衝すると潰れてしまい機能を失う」点を克服した緩衝仕切で、この緩衝材は内外装兼用箱全体にかかる耐圧縮荷重に対し、補強する役割も担っている。

業界情報

開催予定

物流優良事業の募集開始

物流連

日本物流団体連合会（＝物流連、渡邉健二会長）は、国交省・経産省・日本ロジスティクスシステム協会と共同で主催する「令和元年度グリーン物流パートナーシップ優良事業者表彰」の優良事業者の募集を始めた。同表彰では、複数事業者間のパートナーシップにより物流分野における環境負荷の低減、生産性向上等持続可能な物流体系の構築に関し顕著な功績があった取り組みに対して、毎年表彰を行い、グリーン物流の普及拡大を図る。

対象となるのは、CO_2排出量削減等の環境負荷低減や物流の生産性向上等により持続可能な物流体系の構築に資する取り組みと、荷主と物流事業者、荷主同士、物流事業者同士の協働などの複数事業者が連携した取り組み。

募集締め切りは8月20日。12月上旬に結果を公表し、12月中旬の「グリーン物流パートナーシップ会議」の席上で表彰式を実施する。

問い合わせと応募については、荷主が中心となって実施した取り組みは経済産業省（☎03・3501・0092）、物流事業者が中心となって実施した取り組みは国土交通省（☎03・5253・8799）まで。

訃報

森谷信夫氏（もりたに・のぶお＝日本製紙社友、元山陽国策パルプ監査役）

令和元年4月25日、肺疾患のため死去。91歳。葬儀・告別式は5月6日に東京都府中市の府中の森市民聖苑で執り行われた。喪主は長女真理子（まりこ）さん。

下尾崎けい子氏（しもおざき・けいこ＝東京包装材料協同組合事務局長）

令和元年7月11日死去。61歳。告別式は7月15日に千葉県船橋市の昭和セレモニー船橋儀式殿で執り行われた。喪主は長女弘美（ひろみ）さん。

drupa2020 国際印刷・メディア産業展 印刷・包装

四年に一度デュッセルドルフで実施される世界最大の印刷・メディア見本市「drupa2020国際印刷・

A 日程　旅行期間 2020年6月17日（水）～21日（日）5日間　旅行代金 398,000円

日程	発着都市	現地時間	交通機関	内容・宿泊地	食事
1 2020年	関西空港発	10:45	AY	空路、ヘルシンキ乗り継ぎ、デュッセルドルフへ	

B 日程　旅行期間 2020　旅行代金 49

日程	発着都市	現地時間
1 2020年	関西空港発	10:45